

“わたしのまち”

品川区

江戸時代にタイムスリップ



「わ! なつかしい! 東海道品川宿で歴史を感じよう」

平成27年度より「わ!しながわ」をキャッチフレーズに、区のさまざまな魅力を発信するプロジェクトを展開している品川区。区内には江戸時代より人と物が行き交っていた東海道が通り、江戸を出てひとつめの宿場である品川宿があります。毎年秋には品川宿周辺では宿場まつりが開催され、たくさんの人でにぎわいます。今回は、当時の扮装でパレードが行われる江戸風俗行列や、おいらん道中など、江戸情緒を感じさせるしながわ宿場まつりを取り上げ、「わ!」とおどろく区の魅力を紹介します。



江戸時代の風情を感じさせる商店街。品川宿周辺には、昔の面影を残す場所も多い

人・物・情報が集まるまち品川宿

品川宿は、江戸幕府によって整備され、交通の要衝としてだけでなく、また御殿山や品川浦などに囲まれたすぐれた景観を誇る場所として、当時、人気のあるスポットでした。

日本橋からの距離が約8kmと近い品川宿は、江戸に住む人にとっては気軽に訪れることのできる遊興地でもあり、御殿山の桜や海の眺めなどの見所も多く、潮干狩りの場としても、江戸庶民にとって日帰りの行楽地としても絶大な人気を誇っていました。

また、東海道の江戸から最初の宿場である品川宿は目黒川を挟んだ北品川宿と南品川宿、享保7年（一七二二）に独立した歩行新宿（北品川）からな

り、北は現在の京急本線の北品川駅から南は青物横丁駅周辺までの旧東海道沿い一帯に広がっていました。天保の頃の宿場内は1600軒の建物が並び、住民は7000人にもものぼり、活気あるまちだったようです。

そして参勤交代の大名や毎年下向する勅使・院使が通行するため、旅籠屋だけでなく本陣、脇本陣も整備され、幕府関係の公用文書・手紙や荷物を運ぶ御状送りも宿場として重要な仕事でした。

また、宿泊以外に、旅行の休息や江戸に出入りする人々の送迎の社交場としてもにぎわい、江戸に入る大名行列も品川宿で休息して身支度を整えたと

しながわ宿場まつりの様子。大名や武士、町娘などに扮した江戸風俗行列は必見。あわせて、交通安全を呼びかけるパレードもおすすめ



いいです。

北品川や南品川の旧東海道周辺は今も往時の道幅を残し、路地や寺社に宿場町の面影が見られます。この地域を歩くと、石畳の道や趣のある街路灯、軒先にかかる暖簾など情緒あふれる景色に出会えます。こうした昔ながらの町並みを残す取組は、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会を中心とした住民によって維持されています。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会では、東海道沿いの公園などの公共空地やマンションの公開空地など空き地となった場合に、五十七次の各宿場から寄贈される街道松を植樹し、松をつなげていくという取組を進めています。

南品川一丁目の「街道松の広場」には、東海道29番目の宿場である浜松宿の松が植えられています。この松は、浜松市の有賀慶吉氏から寄贈された樹齢80年の黒松で、有賀氏が「品川宿の松」と命名し、1993年に植樹されたものです。

東海道には風光明媚な場所や名所旧跡が多く、これまで浮世絵や和歌、俳句などの題材としてしばしば取り上げられてきました。今でも街道歩き、ま

ち歩きの人々に愛され、多くの人が訪れる人気のある場所、旧東海道周辺、特に品川宿は今も昔の面影を残す場所

江戸の歴史を体感できる宿場まつり

旧東海道品川宿周辺では、町会、商店街、商店会が協力してできた旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会が中心となって積極的にイベントや環境整備を行っています。「しながわ宿場まつり」は江戸時代、東海道五十三次最初の宿場町として栄えた品川の伝統と文化遺産を若い世代に伝え、地域の発展をめざすことを目的に平成2年に始まりました。この宿場まつりは、区内最大級のイベントで、区外からも多くの人が訪れる秋の恒例行事で、今年は9月24日・25日に開催されます。昨年は2日間で約10万人もの人出でにぎわいました。

2kmの道には模擬店が出店し、各種出し物、パレードなどがまつりを盛り上げます。

が残されており、訪れる人に当時の雰囲気を感じさせてくれます。

宿場まつりの開催期間中は、通りにさまざまな露店が立ち並び、東海道のほかの宿場町からの物産展が開催されたり、公園では屋台販売が行われるなど、各地の物産や商店街のグルメを楽しむことができます。さらに、昔のおもちゃ作り、和太鼓の演奏、時代劇パフォーマンス、辻落語や街頭紙芝居、品川寺の火渡り荒行などさまざまな催しも行われ、宿場町の風情が感じられるほか、人力車の試乗体験やミニSL・ゲームコーナーが子どもたちに人気です。

加えて、宿場まつりの中でも例年多くの見学者でにぎわうのが、一般公募から選ばれた方が江戸時代

2016年 しながわ 宿場 まつり

9/24(土)・
9/25(日)開催

●最寄駅

京浜急行本線
北品川駅・新馬場駅・
青物横丁駅



名物、おいらん道中では、きらびやかで美しい姿に皆くぎ付け。子どもたちも禿(かむろ)役で参加する。ほかに、和太鼓の演奏や昔なつかしいあめ細工屋など見所がいっぱい

品川区では「わ！しながわ」を合い言葉に、伝統が息づく暮らしと都心の魅力が共存する品川区の素顔をPRする取組を行っている



PRポスター

区では平成27年度より、「わ！しながわ」をキャッチコピーに、品川宿に代表される歴史や文化、100を超え
る人情味あふれる商店街、開発が進む
おしゃれなりバ
ーサイドなど懐
かしいものと新
しいものが共存
する魅力あふれ
る品川区の素顔
を広く発信する
プロジェクトを
展開しています。
ロゴマークやサ

魅力いっぱい「わ！しながわ」

の大名や武士、町人などに扮して練り歩くおいらん道中と江戸風俗行列です。初日の午後、きらびやかな花魁姿に扮して練り歩くおいらん道中は、宿場まつりの中でも評判のイベントです。八ッ山口で顔見世が始まり、高下駄を履いた花魁が、傘持ち若衆・肩貸し若衆・新造（見習い遊女）・禿役（女児）を伴い吉原流の歩き方である外八文字でしなりしなりと歩きます。あでやかに歩くその姿をひと目見ようと、かけつける海外からの観光客の姿も見られます。一方、2日目には江戸風俗行列・交

通安全パレードが行われ、こちらも人気のイベントです。このパレードでは、公募で選ばれた1000人が武士・町人・茶屋娘・岡引・藤娘・火消しなど江戸時代の町人に扮して、旧東海道を練り歩くほか、毎年著名人が品川警察署の一日署長を務め、オーブンカーに乗りして交通安全を呼びかけることでも話題を呼んでいます。品川宿周辺で行われるイベントを通して、訪れた来場者らは宿場町ならではの江戸の情緒を満喫することができ

ウインドロゴ・アニメーション、ポスターなどを作成し、区のPRに取り組んでいます。

「わ」という語感には広がりを感じさせ、「わ！しながわ」というインパクトのあるキャッチコピーは、文字のデザインや音などさまざまな展開が可能なことから、全国から応募された六百を超える作品の中から決まりました。PRポスターは区内の駅や区施設等に掲示されており、「わ！しながわ」のロゴマークやサウンドロゴは区のホームページから自由にダウンロードして活用することができます。これまで区内の商店がロゴ入りのせんべいを作ったり、福祉施設がロゴ入りのお菓子を作っています。また、駅ビル内のカフェ

で開催されたイベントでは、カフェラテのラテアートに「わ！」のロゴをあしらうなどし、訪れた人に好評でした。また、品川区の「わ！」と驚くおきのスポットやグルメ情報、子育て情報、イベント情報などが掲載された「とっておきの品川区MAP」品川区版Navigatorを都内のカフェ等で配布しました（区のホームページからダウンロードできます）。

品川区は、伝統が息づく暮らしと都心の魅力にあふれた場所です。よろこびの「わ！」、おどろきの「わ！」、感動の「わ！」。品川区のたくさんの「わ！」をしながわ宿場まつりをきっかけに見つけてみませんか。

しながわ宿場まつりの時期に訪れるのにぴったり

広報担当
おすすめの わ！しながわ



品川浦の船溜まり

東品川1丁目

旧東海道だけでなく「水辺」も品川宿周辺の見所のひとつです。京浜急行本線北品川駅から東へ向かって約5分ほど歩くと、釣り船や屋形船がたくさん碇泊している品川浦の船溜まりに着きます。これほど身近に水辺環境がある地域は東京の中でも限られており、しながわ宿場まつりが開催されるこれらの季節、夏の納涼、秋のお月見など屋形船が名物です。

情緒ある風景が残る品川浦は、40数年前までは由緒ある漁師町でした。〔御菜肴八ヶ浦（おさいさかなはちかうら）〕（元浦の本芝・金杉をはじめとする、品川・御林・羽田・生麦・神奈川・新宿の浦々）のひとつとして、収穫した魚などを江戸城に献上していました。カレイ・あいなめ・車海老などをはじめ豊富な水揚げを誇り、また海苔の産地としても知られていました。

品川浦は、都市化が進む品川区の中で、憩いのひとときを過ごすことができる貴重な水辺の風景です。